

## 78. 国頭・中頭方西海道

選定箇所：

国頭方西海道—<sup>なかどまり</sup>仲泊～<sup>くらは</sup>久良波～<sup>やまだじょうあと</sup>山田城跡～<sup>まえだ</sup>真栄田（沖縄県恩納村）

中頭方西海道—<sup>まきみなと</sup>牧港～<sup>あはちや</sup>安波茶～<sup>きょうづか</sup>経塚（沖縄県浦添市）～<sup>たいら</sup>首里平良～<sup>しゅり</sup>首里

<sup>じょうあと</sup>城跡（那覇市）

概要：15世紀後半以降には海上を含むすべての道が首里に通ずる道として整備

されたとされ、首里から浦添、北谷<sup>ちやたん</sup>を経て、本島西海岸の各地を結ぶ宿道<sup>しゅくみち</sup>（幹線道路）を西海道と呼び、西海道は国頭（北部）地域を通る国頭方西海道と中頭（中部）地域を通る中頭方西海道からなる。王国時代は人々や文物の交流を担った主要道路であり、各所に石畳道や石橋を設置し、道沿いに松並木が植栽されるなどの整備が行われ、現在も石畳道や石橋が残存している場所がある。



国頭方西海道（山田谷川の石畳）



中頭方西海道（安波茶橋）